

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 令和4年 4月 日

事業所名 ジョイジョイ

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11			感染予防として、家具の配置を変え、定員を決めて使用している。
	2	職員の配置数は適切である	11			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	5	3	階段や段差がある。 危険のないように配慮している。階段の所に手すりがある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	1		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	2		年に1回アンケート調査を行っている。 努力はしているが、すべての要望には応えられていない。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	5		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		8	1	法人の評価を参考にしている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11			常勤スタッフによる非常勤スタッフへの研修や外部講師による研修を行っている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	3		情報を共有している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1		主に常勤スタッフでしている。藍染め、巾着作り、お出かけプログラム等、事前準備、下見等をチームで行う
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	3		長期休み中、普段行かない公園に行く。 なるべくしているつもりである。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10			学習段階に応じてモニタリングし、学習内容の変更等、利用者の方とも話し合い設定する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	1		集団活動ができる日とできない日があり、子どもの状況を見つつ行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	1		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	5	1	反省会的なものは持っていないが、日誌を書きながら話し振り返っている。 送迎からの帰所時間がバラバラであるため打合せという形は取っていないが、支援の記録を必ず読み合っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12			6か月に1度モニタリングを行っている。 必要に応じて中間モニタリングを行うこともあった。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	8		努力はしている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	1		相談員、学校の先生、保護者が参加しているところに加わっている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	12			支援学校と直接情報を共有したり、保護者を通して共有したりしている。送迎時に学校教諭と共有することもある。連絡帳を用いている。職員全員が連絡を取り合えるツールがある。送迎中のトラブルに関しては、添乗員が携帯する電話の設定をボタン一つで事業所につながる設定になっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	3		保護者から必要な連絡体制をお聞きし、対応についても情報共有している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	4	1	保護者を通して検査結果や個別支援計画を情報共有のツールとして用いている。 深くはできていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	7	1	障害福祉サービス事業所等へ移行した利用者はいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	1		市の事業所交流会に参加し、情報共有や研修等を受ける。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6	4	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	4	3	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	1		連絡帳や送迎時にその日の様子を共有し、気になる課題があれば電話等で情報共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	5	2	面談の際に相談などがあれば、それに応じて話し合いをする。来年度ペアレント・トレーニングを予定している。今年度は親子クリスマス会を開催し、交流の機会を持つことができた。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	1		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	2	3	コロナの影響により開催できなかったが、初めてご家族招待のクリスマス会を行い、保護者同士の交流も見られた。継続して企画したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10			管理責任者が窓口となり、話し合いの場を設けて対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	2	1	定期的ではなかったが会報を発行することができ、特に感染対策について情報共有することができた。
	35	個人情報に十分注意している	11			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11			連絡帳、対面、電話などを用いている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4	6	近所のスーパーから果物のプレゼントをいただくなど、事業所が地域に認知されている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11			長期休み毎に地震、洪水、不審者対応について訓練を行った。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	2		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	3		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	1		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10			